

第 1 回 札幌市歴史文化基本構想策定委員会

会議要旨

日時：平成 30 年 3 月 14 日(水)14:00～
会場：札幌市役所本庁舎 12 階 4 号会議室

1. 委員紹介

事務局より委員紹介

2. 委員長、副委員長の選出

委員長は角委員、副委員長は西山委員に決定

3. 歴史文化基本構想策定について

○事務局

札幌市はこれまで指定文化財の保存活用については進めてきたところですが、もっといろいろなものを取り上げ、残していくための方向性を構想として整理することになります。この歴史文化基本構想を各自治体で定めることにより文化財保護に関するマスタープランとしての役割を果たすほか、文化財を生かした地域づくりに資するものとして活用することが期待されており、現在、約 60 の地方公共団体がこの構想を策定しております。

また、構想の策定につきましては文化庁が策定指針を設けておりますので資料 6 として添付しています。なお、事業を進める中で、本市では指定されていない文化財を「歴史的資産」と言っていました。歴史文化基本構想を策定するにあたりまして、文化庁の策定指針に従い、表現を「文化財」としています。

本事業の取り組みにつきましては、平成 27 年度から 29 年度にかけて建造物・土木構造物・歴史資料のリストアップやリスト整理を行っております。今年度は建造物と土木建造物の現地調査等を行うとともに「(仮称)札幌市歴史的資産保存活用推進方針」検討委員会を 2 回開催しました。

当初、本市では調査に基づきまして方向性を方針としてまとめる予定でございましたが、検討委員会において幅広い分野の文化財の掘り出しと活用を考えて、構想の策定を目指すべきだというご意見をいただいたこと、また国においても文化財保護法の改正が予定されていることを踏まえまして、構想の策定を進めることになりました。

来年度につきましては、文献や現地調査による幅広い分野の文化財の抽出を行い構想の策定に向けて検討を進める予定でおります。構想の策定は平成 31 年度を目指しております。

4. 歴史文化基本構想について

【西山委員による歴史文化基本構想についての講演】

5. 今後のスケジュールについて

○事務局

調査につきましては、文献調査や過去の調査利用からの抽出を行いつつ、現地調査をしたいと考えております。調査につきましてはどのような方法で行うかはこれからの検討と考えております。また、ワークショップをなるべく多くの区で行いたいと考えているほか、まちあるきツアーやシンポジウムを開催し、広く市民を巻き込んだ活動をしたいと考えています。

来年度の実施に先行しまして、今年度、南区民センターでワークショップを開催いたしました。文化財の掘り出しとそれらをグルーピングするという内容で行いまして約 20 名の方にご参加いただきました。本日、お越しいただいている黒岩委員にも参加いただきました。

この委員会につきましては、本日を含め計 6 回程度を予定しております。本委員会とは別に、本市の観光やまちづくり、教育等の部署で構成する関係課長会議も開催する予定となっております。

○羽深委員

確認ですが、条例制定準備とあるけど、この委員会で検討するのではないですね。

○事務局 違います。

○羽深委員

あと、気になったのは 28 年度の調査資料を見たときに、一番大事な道立文書館に収蔵されている開拓使文書についてもふれてない。あとは南区でワークショップをやったけど、南区で発掘されている「サッポロカイギュウ」というのも世界的にもすごく価値があるものだけど、そういったものはどこの局面で出てくるのか。

○事務局

これまでの調査につきましては、建造物・土木構造物が主な対象でしたので、その他の分野についてはワークショップとかいろいろな方法で来年度、拾い上げていきます。

○角委員長

文献について、実際に僕も立ち会ったことがあります。各資料館でリスト化されていない。同じフォーマットでやったらいいのではという意見も出たが、1 年ではできないだろう。そこをどうしていくかは今年度の方針の中で決めたらいい。これからのやるべき課題に入るのではないか。他の資料館も同じで、みなさんほとんどボランティアでフォーマットが決まっていない。そこを何とかしていきたいというのが、この調査の次のステップです。

○甲地委員

もう少し具体的にどんなワークショップなのでしょう。もう一つ、実質、調査は誰がするのでしょうか。

○事務局

先日南区で行ったワークショップを同じようにやるかは今後の検討ですが、南区のワークショップについてご説明します。ご参加いただいた市民のみなさんに3グループに分かれ、どういうものを文化財と思うのかをお話いただき、マップ上にプロットしました。その後、みなさんに地域の魅力を話し合ってもらった、という内容でした。来年度についても地域の魅力を話し合う場であったり、その中からわたしたちが気づかない文化財を拾い上げる場にしたりしたいと考えています。委員のみなさまにもご意見をいただきこの後のワークショップの在り方も考えていきたいと思えます。

調査については委託で行うことを考えております。

○金山委員

基本的なことをうかがいたいのですが、先ほどの西山先生のお話の中で、国が歴史文化基本構想を推進しているというのはわかりましたが、札幌市が歴史文化基本構想の策定をやる行政的な狙い、目的は何でしょう。行政的な今回の構想を作る目的や狙いを共有しておきたい。

○事務局

ひと言で言えば、これまでの文化財行政は指定文化財を中心に行っていたので、それをもっと広く、未指定についても考えていくべきというのが目的の一番です。そのためには歴史文化基本構想を通して拾っていかないとしないと考えています。策定してそれで終わりではなく、元になる物と理解しています。

○金山委員

どういうものがあるのかを調べる段階ということ。その保存とか活用についての議論は。

○西山副委員長

なぜ文化財を保存するのが行政の仕事なのかと聞いているのと似ていると思います。指定文化財しかやっていなかったから、未指定の物も守るようにしたい。そもそも文化財はなぜ、行政が守らなければいけないのか。都市とか地域とか行政、その中でその文化財をなるべく広く守ることは行政課題として間違っていない。但し、権威とか学術とかがお墨付きを与えた物じゃない文化財があるのですから、それも大事ということに誰も異論がなければ次の段階に行けます。そこに疑問があるかどうかは大いに議論しておかなくてはならない。「指定文化財だけ守れば、他

は壊して新しい物を作ればよい」という考え方もあります。20世紀はそれをやってきました。指定するということは壊していい物を決めるということに等しい。そういう意味ではそこが転換したのです。しかし、ぜんぜん全国には浸透していない。札幌市ではこの委員会が受け入れられるかどうか考えなければいけないことで、スルーはできない。それが金山委員の質問の意味かも知れない。もう一つは、そこがクリアできたら今度はやって何になるか。何ができるのかはまた別の議論になる。どっちになるでしょうか。

○金山委員

指定されていない物も守ろうというのは僕もその通りだと思います。守るといっても収集する、把握する、その次のステップとして保存・活用になると思います。それをするための目処というか、ただ収集するだけではなく、どういう方向で保存・活用していくかを議論しておいた方がよいのではないのでしょうか。

○角委員長

次のステップでどこまで書き込むか、保存や保全への方向性の体制作りとリンクするので、そこで議論された方がよいかなと思います。

基本的には、地域の人が自分たちの周りにこんないいものがあるのに気づかなかったねと言うのを市民に認識して欲しい。ただみんなで行おうといってもできないので、歴史文化基本構想をまとめたときに1年間でここまでやると決めたほうが地域の人にも真剣になってやってくれる。

ワークショップは何のためにやるのかというと、子どもたちに残したい物はこんなものがあるとか、市役所の人には知らないだろうけどうちの地域はこれが大事とか、そういうのが積み重なっていることで歴史文化基本構想の根幹である地域の方々の声が間接的に入ってくるようなことがあればいいなど。

先例である寿都町や江差町だと、地域の方の声は直に届くけれど、札幌市のようにこれだけ大きいとなかなか大変では。ワークショップをやることで、ヘリテージマネージャーなども調査やワークショップに出たり、地域のそういう場を作ること自体が札幌市には今までなかったので大きな進展だと思います。

今まで札幌市にはリストがきちんと整理されていなかった。それをちゃんとストックすることによって、「これが壊されてしまうから大変！」というのではなく、事前に把握していると、都市計画でも生かせる。

大きな震災があったときに歴史的な建物がどうなっているか、調査はすごく大変だけど、リストがあることで手分けして確認することができる。次のステップの中の大きな一歩だろうと感じている。

○羽深委員

10年前、札幌市の文化財保護審議会と同じような議論をしていた。そのときは、建造物以外のこともやっていて、豊平館の改築に何億とお金がかかるとか。建造物だけにお金を使って、他に使わないのか。文化財というものを札幌市はどう考えているのか。50年後、100年後、新たに文化財指定するなら、どういうものを指定するのか、しないのか。そこをちゃんとしないと札幌市のこれからは語れないだろうというところで終わった。どういうものを指定すればいいのか、その延長上にこの会議もある。札幌市として市民を巻き込み、指定するかしないか、こうだと言い切れないと、なかなか前に進めないでしょう。

○川上委員

スケジュールに関してですが、平成30年度、この会議が6回くらいあって大まかな構想が確定していて、平成31年度に最終的に完成するということですが、先ほどからの会議で、まだ調査が行き届いていないところもある。西山委員のご説明でもあったが悉皆調査をやるとかデータベースを作るとか、実はこの平成31年で完成するわけではないと思う。一旦、基本構想としては期限を決めて作るけれども、それに付け足したり改訂したり、そのようなスケジュールも欲しいと思います。そういうことを提言していくのも我々委員の役目だと思いますが、事務局のほうでも完成後の追加・改定スケジュールを想定して欲しいと思います。

6. 歴史文化基本構想の項目について

○事務局

歴史文化基本構想の項目について、【資料5】【資料6】を説明

7. 意見交換

○阿部(一)委員

先ほど西山先生にお話しいただきましたが、萩市の話を聞くと古い時代の話。北海道・札幌になると明治以降の話です。資料5に、旧石器時代～アイヌ～開拓～現代というところがありますが、ここをもう少し丁寧になされるべきではないかと。私はアイヌ文化振興財団で小学校・中学校の副読本を作成しています。やっぱり日本の学校教育できちんと時代背景を教えないので、「実は北海道には弥生時代から江戸時代までないんですよ」というと先生を含めてみんな驚きますね。その辺のことをきちんと教えていかないとならない。

本州から来る人は、アイヌ語の地名にみなさん驚く。札幌もアイヌ語、ということ驚く。そういう問題とか、藻岩山も本当は円山が藻岩山なんだよとお話しすると非常に驚きます。豊平、月寒、発寒、篠路もそう。いきなり石器時代からアイヌでは

ないので、その辺のところもちゃんとお話しして欲しい。

これは建物というか文化財のお話なので、昔はチャシもあったわけですから天神山もそうですし、そういう場があるのであれば、紹介して欲しい。

○角委員長

ほかにいかがでしょうか。

細かいことはこれから次の委員会等で話しますが、ざっと見ていただいて、今の阿部委員のようにこういう部分を注意した方がいいのではないかと。地名みたいな物は北海道独特かも知れませんよね。

○往田委員

2番の札幌市の姿【歴史的背景】というところ、まず、自然環境や社会環境を書いていくというお話がありました。明治以降 150 年の歴史は短いというのはもちろんですが、ここ 30 年、50 年の札幌市の動きが速い。ここにも着目していかないと今後何も残っていかない。特にオリンピック関連も残っていかないのではないかと思います。また、札幌は人の出入りが激しいまちと認識しておりまして、昔から住んでいるから愛着がある、古老がいるという地域ではない。札幌市の中でもかなり移動が激しい、そういう中で伝承していかないといけないものがあるのではと思いました。外から来た人にも瞬時で分かるような札幌らしさを打ち出していくと札幌らしさがあって、札幌の歴史があって、札幌の街並みがあって、分かるような目標があるといいなと思いました。

○山舗委員

今のご発言、私も考えていたところがありまして地理的な特徴と自然環境が出てこない。イメージしにくいのもあるかと思いますが。それにプラスして4章にあります、文化財が関連した物をひとつの群としてとらえるというのが、群というのはひょっとして土地の利用など地理的な特徴と関連したのがあるとしたら今の南区っていうお話もあったのですが、今の行政区で分けていくとバラバラになるような気がします。

○角委員長

区ごとでは難しいのでその辺をどう表現するか、札幌市自体が合併でできている。そこが分厚いと次のステップに行かないのでどうするか課題としてある。

○甲地委員

文化庁がこういったハンドブックのような形で示していただいて、それとの整合性を図りつつ札幌市でも、というのは異議を唱えるものではありません。しかし、国といいますか文化庁の発想そのものが、本州の人っぽい。知らず知らずのうちに本州の歴史が考え方の基準にあって、そこの上に作られているというのがやってい

くうちに見えてくると思う。最近経験したことでいうと、文科省の指導要領などで、無形文化財に関して郷土の音楽、地域の音楽に親しむというのを数年前からやっている。そこに描かれている郷土の音楽というのを北海道で実施しましょうというのでは、何かモヤモヤする。郷土の音楽として定められている枠組みでは捉えきれないのが北海道。先ほど阿部委員がおっしゃったような北海道の歴史をデリケートに把握し、定まっている物は定まっているけど、北海道独自の歴史、枠組みの違い、もともとそこに住んでいる人が多数である本州の歴史と、元々先住民族がいてそこに大量の移住者がやって来たという北海道の歴史では同じ枠組みで話せない。そこを土台としてきちんと捉えていないと、いろんなところで借り物のようなのが出てくる。札幌および北海道の独自性を考えた上で策定していくことが大事だと思う。

○角委員長

これから1年でみなさん方のご意見を大量にいただく。次の2カ月後には相当ハードなスケジュールになりますが、その辺も含めてみなさんの忌憚ないご意見をいただき、最初から軌道修正できるよう進めていただきたいなど。

○西山副委員長

提案ではないが、全国の歴史文化基本構想の作り方は大きく分けて2通りある。ひとつは専門の先生が集まった場所でテーマを先に決めてしまう。たとえば、4つくらいのストーリーに基づいてみんなで調査する。そこからこういうのが出てきたというのを集大成していくと、そういうやり方は結果に結びつきやすい。これをストーリー志向型と呼んでいる。

もうひとつは悉皆調査型。最初の4類型くらいの文化財をみんなで探してみましようというのものもある。どっちがいいかはその地域の特性に応じて、そういった意味では前者のやり方だとかなりここで揉む必要がある。ちょっとその辺を戦略として議論していただいた方がいいと思う。ストーリー志向でやるやり方と、もう一つはお宝の取り上げ方だけを決めておいて、地元から上がってきた提案に基づいて策定後に1個ずつ取り上げる。こういうのをやっているのが江差とか太宰府。本当に住民の方々が自分たちで興味があったり責任が持てる物を遺産として取り上げていく。札幌市は前者の方がわかりやすいかも知れない。しかも都市が大きすぎる。4つしかないということではなく、今後探すけれどもこの1年間はこういうテーマで探しましょう。来年、再来年以降はこういうテーマもあるかも知れませんよという洗い出しをして、とにかくその戦略を早めに決めないと。

○角委員長

たぶん、事務局は南区では軟石だとかいくつかの基本的構成を把握した上で南区でやったという風に思っている。今までの中で、ゾーニングみたいなのを文化財課

でやっている。

どこにも出てきていないが図らずもストーリーと関連するのがあって、事務局としては先にこういうストーリーで考えています、というみなさんから「いや、それだけじゃない」というのが出てきたりする。区ごとのワークショップでこんなものが出ましたとかより、そういうものをベースにこの場でみなさんで言った方がより鮮明になるかも知れません。

○事務局

角先生のおっしゃるとおり、各区で思いがあると思う。拾い方については念頭に置いておりましたし、それ以外にもこんなものがあればいいなというのもありました。次回までに整理して先生がおっしゃったようなストーリー志向型とか、こういうやり方もあるというご意見もいただいておりますので、とりあえず1年間やってみるというのがいいのか、一旦持ち帰って検討したい。

○黒岩委員

ワークショップでは石山が例で出ていました。今回のワークの段階で石山だけにとどまらず、北区や東区に広がったり、多種多様なご意見が出てくる。広範囲にとらえるとなかなか難しい。資料館を預かる上において自分なりの考えもありますが、多種多様な考えがある。

図書館は分類があるが、文化財と資料館の展示物について、なかなか掌握できることがないので、こういう機会をもって網羅していく、我々の課題かなと思います。

○西山副委員長

日本遺産というのをやっているが、札幌市も一つくらい目指さないですか？ 私は北海道から7つ位のストーリーが日本遺産になってもいいのではないかと思います。この中の関連文化財群のひとつを日本遺産にしてみようと組み立ててみてはいかがでしょうか。というのをたたいてください。提案としてはおもしろいかも知れない。

○角委員長

ちょっと事務局に持ち帰っていただきましょうか。ほかになれば、事務局にお返しします。

8. 閉会

今回は6月頃である旨事務局より案内し、閉会。